

ごあいさつ

(財)九州環境管理協会 理事長 持田 勲*

私たち地球上の人類が、豊かな未来を切り開くために最大の努力を続けなければならないのが環境の保全です。経済の高度成長期になおざりにされがちであった日本の環境は、私たちに深刻な反省を迫りました。1970年代を転換期として、国土の開発などによる環境の劣化を回復し、さらに事前に予測し、未然に防止する努力を開始しました。「環境アセスメント」が始まったのもこの頃です。国土の環境を広く調査し、監視するようにもなりました。産業のすべてが環境と調和した優れた技術を開発することで、今日の隆盛をみています。さらに、現在よりも好ましい環境を創りだし、安全、安心で快適な環境を、子孫のために保存し、創造しようとする努力も始まっています。

1990年代の後半になって、地球環境、特に地球温暖化を防止する必要性が国際認識となってきました。文明生活に直結した化石資源エネルギーの大量消費は、大気中の二酸化炭素濃度の増加をもたらすと認識されています。近年、国際的な取り組みが始まりましたが、世界経済の拡大成長は現時点では化石資源の消費を伴うことから、環境を守る持続的発展への英知が要求されています。高度な技術と成長の限界をわきまえた節度ある生活態度も必要でしょう。昨年末、アスベストの健康影響が顕在化しました。少々甘くみていたつけがまわってきたと思うべきで、この際きちんとした対応が必要です。

(財)九州環境管理協会は、1971年公害防止に寄与する公益法人として発足しました。九州地域の諸大学と連携して、大気環境の保全、排水管理及び処

理、土壌・河川・湖沼・海洋の環境の保全、生態系や環境放射能の管理、開発に対する環境アセスメントとそれに続くモニタリング、環境計画・設計さらに地球温暖化防止や環境意識の向上、子供達への科学技術の普及啓発などの環境に関わる広い分野で技術や経験を深め、私達の環境を守る啓発普及及び調査研究を実施しています。今後も環境の全ての分野において、九州を中心に日本を代表する学識経験者の方々のご指導をいただき、行政機関の支援を戴きながら、常に最高水準の正確さ、公正さ、創造力のある技術を持ち、深い信頼を勝ち得た公益環境コンサルティング事業機関として一層の発展を期しております。

その先には、中国や韓国を巻きこんだ国際化もありうるでしょう。これからも地域社会との対話を一層深めて、より良い環境を求め続ける社会の要望に正面から応え、科学の水準を高める努力を加えて、社会に貢献していきたいと考えています。

*九州大学名誉教授 九州大学産学連携センター特任教授 (独)科学技術振興機構研究成果活用プラザ福岡館長